

(6) 結婚観

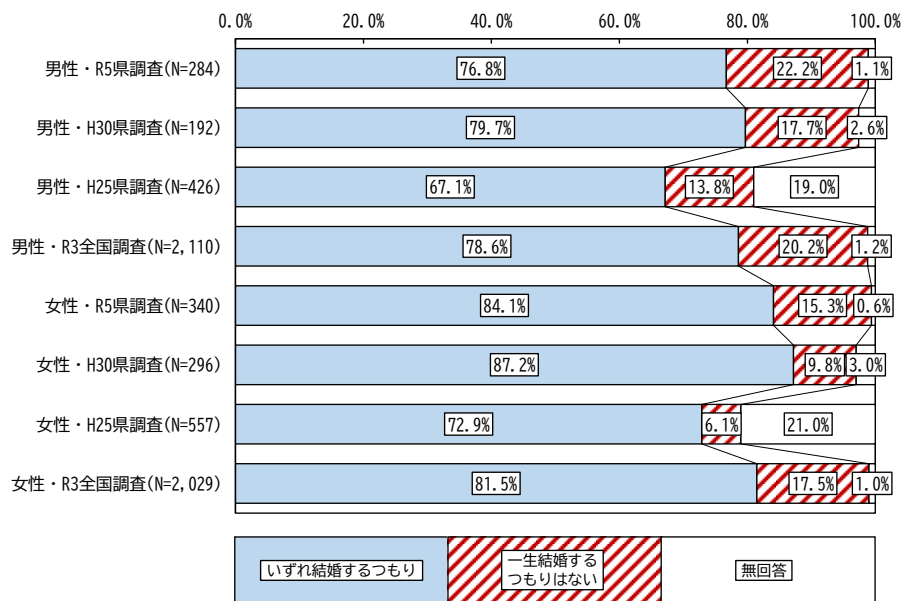
結果のポイント

- 結婚経験のない20～39歳は男女とも8割程が「いずれ結婚するつもり」である。
- 「ある程度の年齢までには結婚するつもり」の割合は男女ともに低下傾向だが、4割強～5割弱と少なくはない。
- 希望結婚年齢は男女ともに26～30歳の割合が最も高いが、女性は20代や30代前半を希望する割合が男性より高い。
- 現在独身でいる最も多い理由は男女ともに「適当な相手にまだめぐり会わないから」だが、めぐり会わない理由は「そもそも身近に、自分と同世代の未婚者が少ない(いない)ため、出会いの機会がほとんどない」ことが挙げられている。
- 「生涯独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない」「男女と一緒に暮らすなら結婚するべきである」と考える人は男女ともに前回調査から低下している。
- 「結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」など役割分担意識も過去調査から低下しているものの、結婚相手を決める際には女性は「相手の経済力」を重視する割合が男性に比べて高い。それ以外にも「自分の仕事や生き方に対する理解と協力」「家事・育児に対する協力と理解」を女性は男性より重視している。
- 男女ともに「結婚後の生活費用」「職業や仕事上の問題」が結婚への障害となっている。

① 独身者の結婚意欲

結婚経験のない20～39歳の、結婚意欲をみると、男性では「いずれ結婚するつもり」が76.8%となっており、前回調査に比べて、変わりはない。女性では「いずれ結婚するつもり」が84.1%となっており、前回調査に比べて、1.9ポイント低下している。

図表 結婚意欲



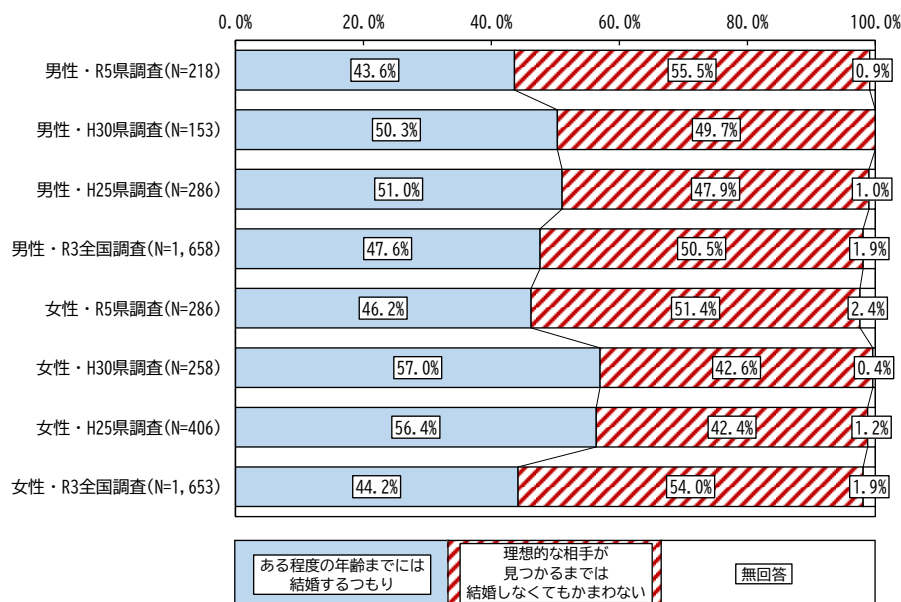
※集計対象：結婚経験のない20～39歳

② 結婚時期についての考え

結婚経験のない20～39歳の、結婚時期についての考えをみると、男性では「ある程度の年齢までには結婚するつもり」が43.6%となっており、前回調査に比べて、6.7ポイント低下している。

女性では「ある程度の年齢までには結婚するつもり」が46.2%となっており、前回調査に比べて10.8ポイント低下している。

図表 結婚時期についての考え

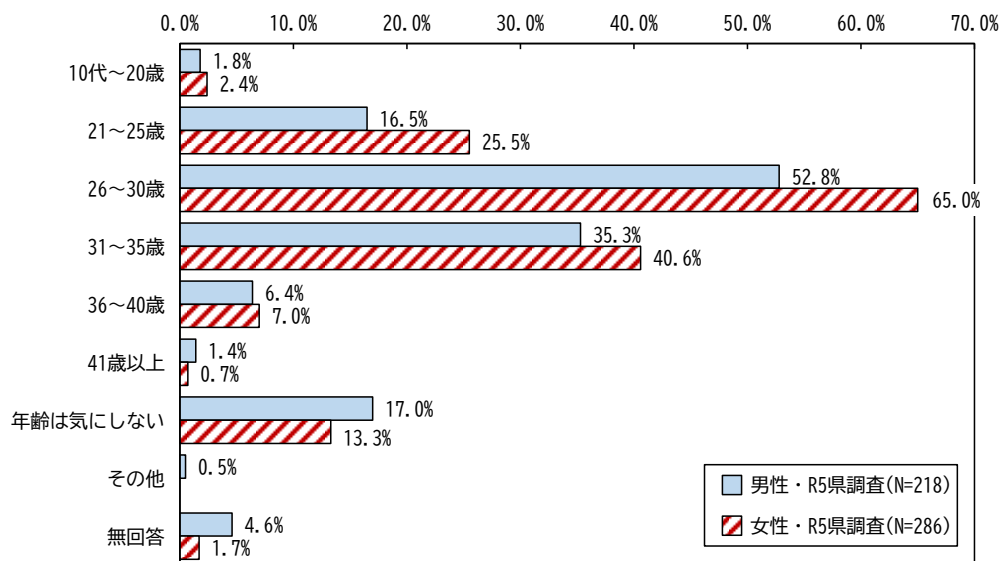


※集計対象：結婚経験がなく、いずれ結婚するつもりの方の20～39歳

③ 希望初婚年齢

結婚経験がなく、いずれ結婚するつもりの方の20～39歳の希望初婚年齢をみると、男女とも「26～30歳」が最も多く、男性で52.8%、女性で65.0%となっている。次いで「31～35歳」が男性35.3%、女性40.6%、「21～25歳」が男性16.5%、女性25.5%となっている。

図表 希望初婚年齢



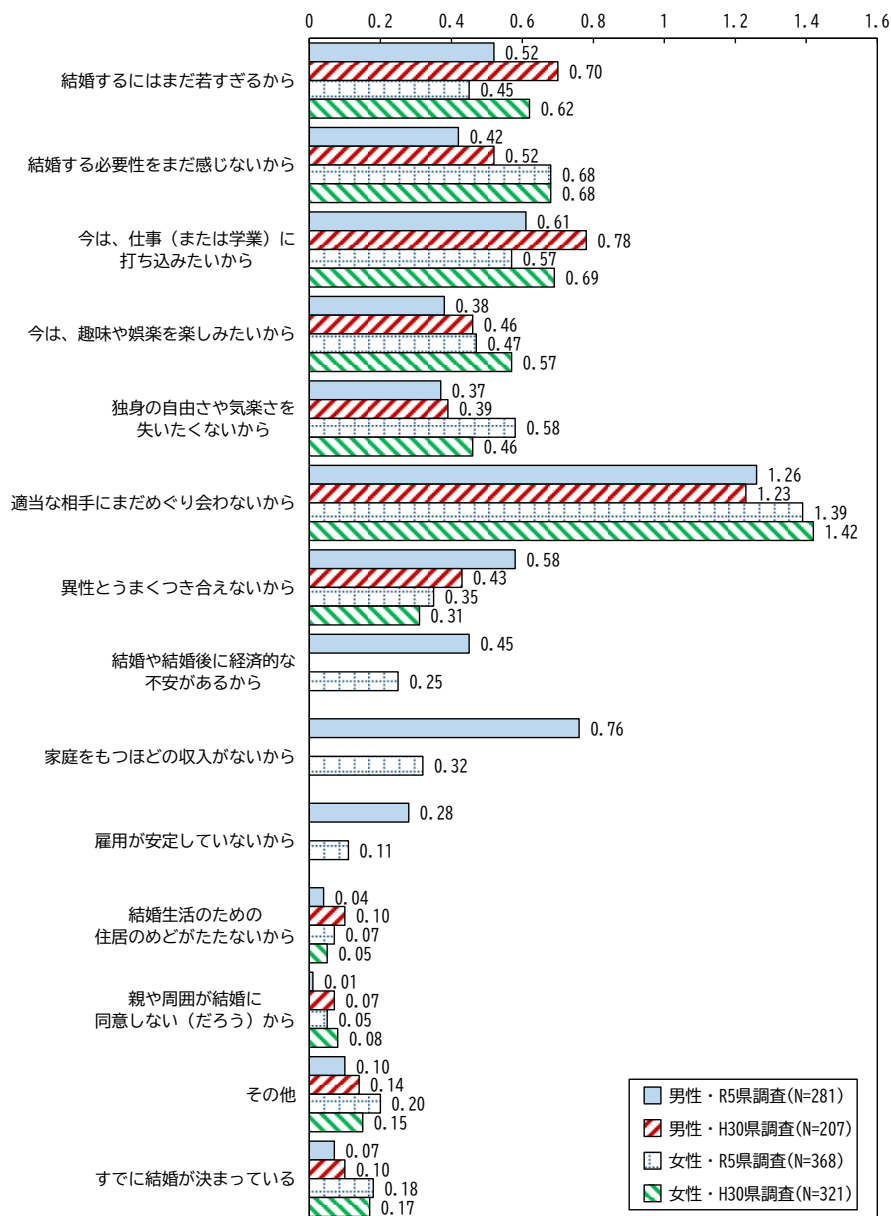
※集計対象：結婚経験がなく、いずれ結婚するつもりの方の20～39歳

④ 現在独身でいる理由

現在独身でいる理由をみると、男性では「適切な相手にまだめぐり会わないから」が1.26点で最も多く、次いで「家庭をもつほどの収入がないから」が0.76点、「今は、仕事（または学業）にうちこみたいから」が0.61点となっている。

女性では「適切な相手にまだめぐり会わないから」が1.39点で最も多く、次いで「結婚する必要性をまだ感じないから」が0.68点、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が0.58点となっている。

図表 現在独身でいる理由（あてはまる理由を3つ選択）



※「結婚や結婚後に経済的な不安があるから」「家庭をもつほどの収入がないから」「雇用が安定していないから」は今回調査からの新規項目

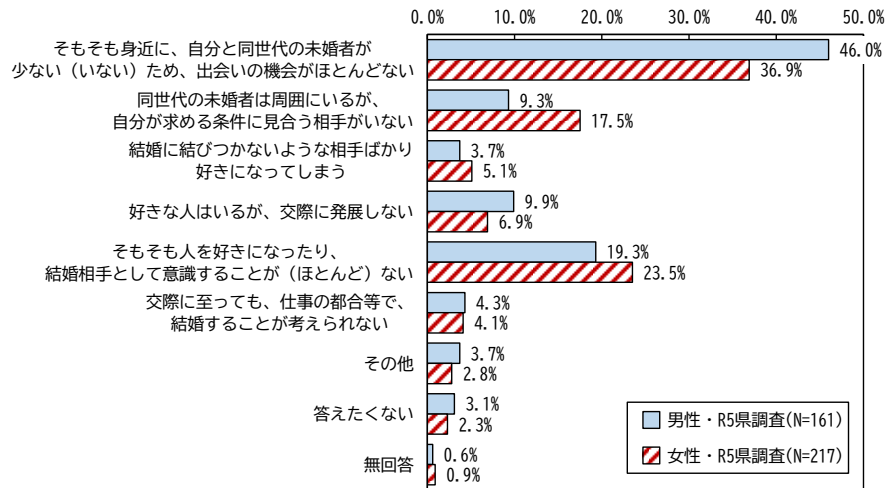
※結婚経験のない方について、

最大の理由=3点、第二の理由=2点、第三の理由=1点として合計し、対象の母数で割った値を得点とした

⑤ 適当な相手にめぐり合わない理由

適当な相手にめぐり合わない理由をみると、男女とも「そもそも身近に、自分と同世代の未婚者が少ない（いない）ため、出会いの機会がほとんどない」が最も多く、男性で46.0%、女性で36.9%となっている。次いで「そもそも人を好きになったり、結婚相手として意識することが（ほとんど）ない」が男性で19.3%、女性で23.5%となっている。

図表 適当な相手にめぐり合わない理由

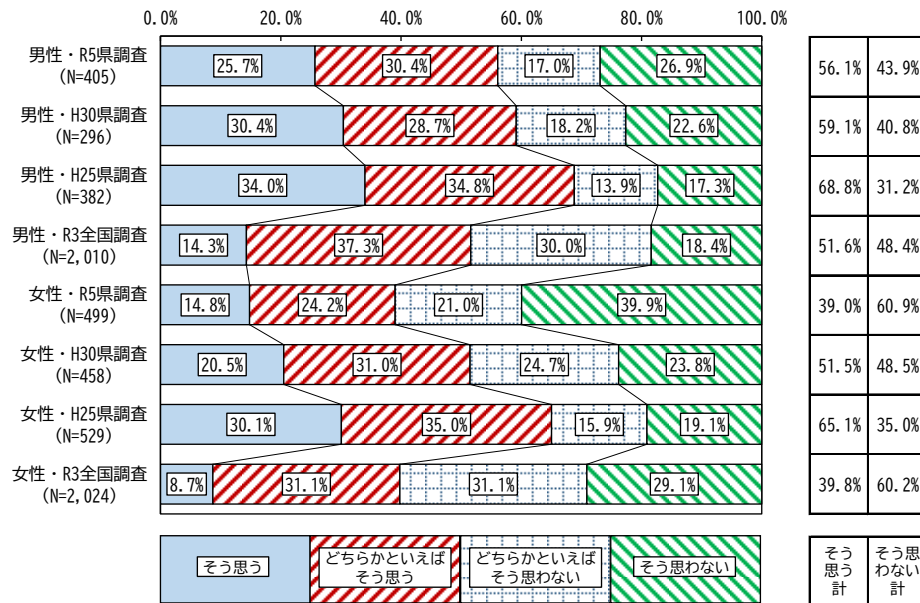


⑥ 結婚観

「生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない」「男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである」「結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」は女性の方が肯定的な割合が男性より低くなっている。過去調査と比較すると男女ともに肯定的な割合が低くなっているが、特に女性の肯定的な割合の低下が著しい。

⑥-1 結婚観：生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない

図表 結婚観：生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない



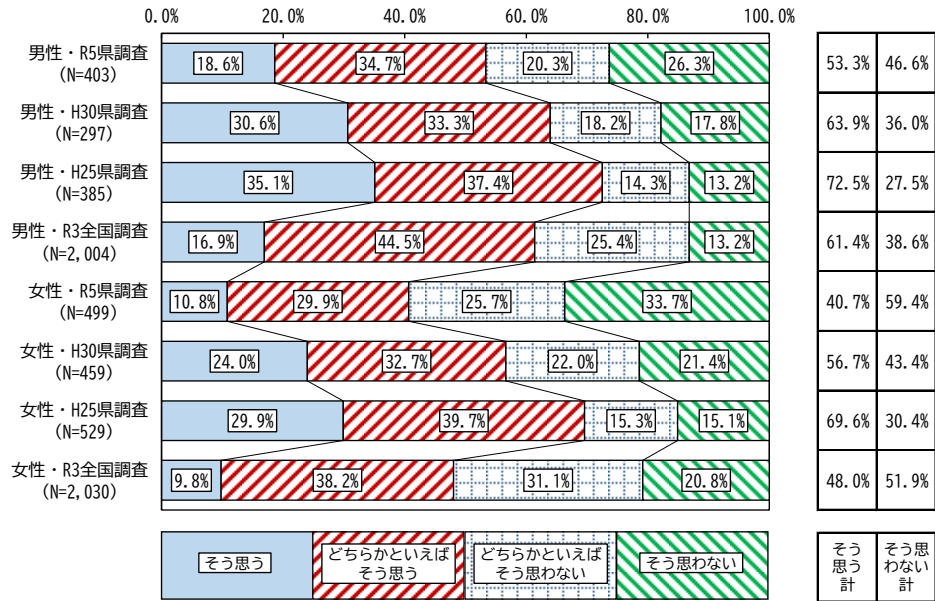
※無回答を除く

※集計対象：R5 県調査・H30 県調査は回答者全数、H25 県調査・R3 全国調査は18～34 歳

※R3 全国調査は「まったく賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「まったく反対」となっている

⑥-2 結婚観：男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである

図表 男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである



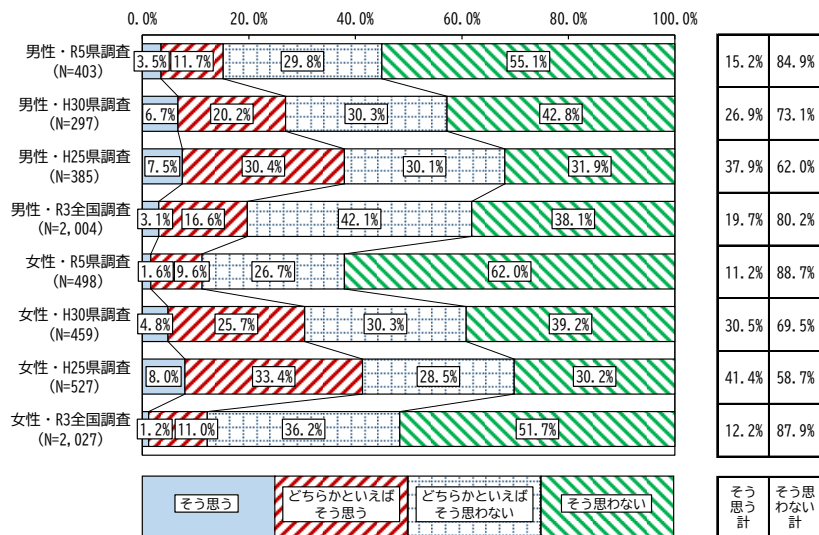
※無回答を除く

※集計対象：R5 県調査・H30 県調査は回答者全数、H25 県調査・R3 全国調査は18～34 歳

※R3 全国調査は「まったく賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「まったく反対」となっている

⑥-3 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ

図表 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ



※無回答を除く

※集計対象：R5 県調査・H30 県調査は回答者全数、H25 県調査・R3 全国調査は18～34 歳

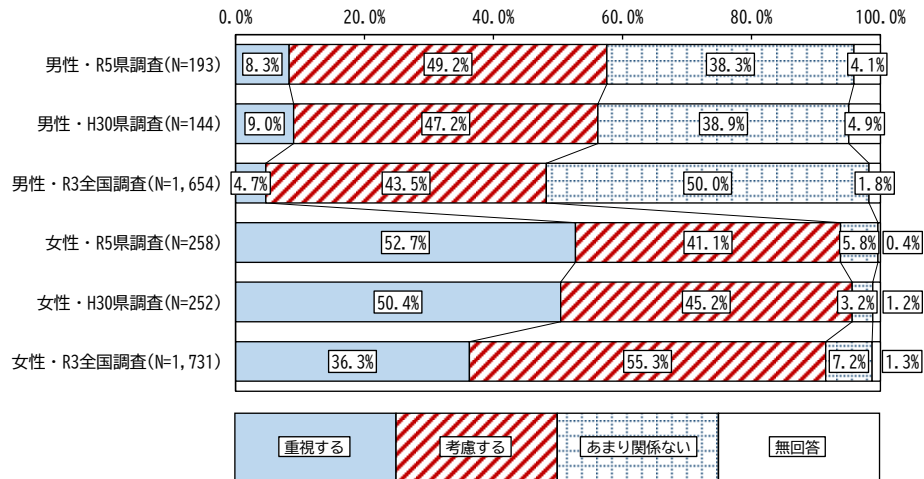
※R3 全国調査は「まったく賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「まったく反対」となっている

⑦ 結婚相手を決める際に重視すること

全体として、すべての項目において女性の重視する割合が男性を上回る。特に相手の経済力については、他の項目に比べて差が大きい。

⑦-1 結婚相手を決める際に重視すること：相手の経済力

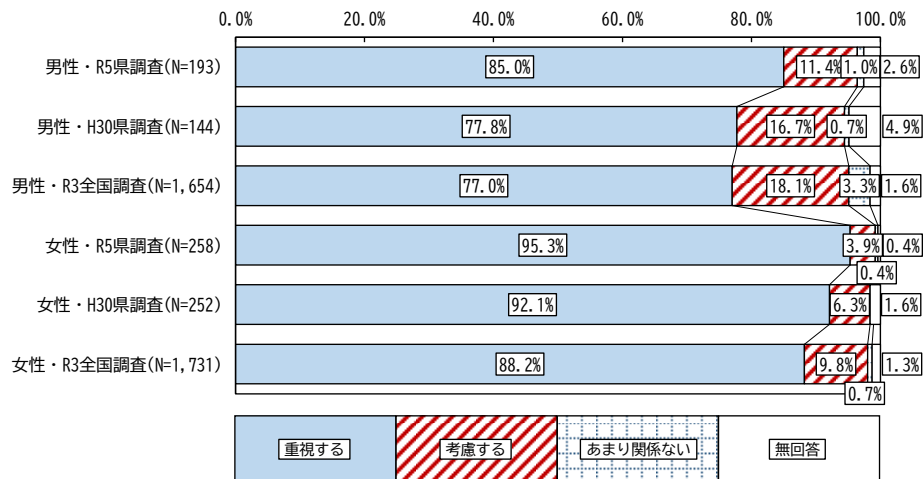
図表 結婚相手を決める際に重視すること：相手の経済力



※集計対象：いずれ結婚するつもりの方の18～34歳

⑦-2 結婚相手を決める際に重視すること：相手の性格

図表 結婚相手を決める際に重視すること：相手の性格

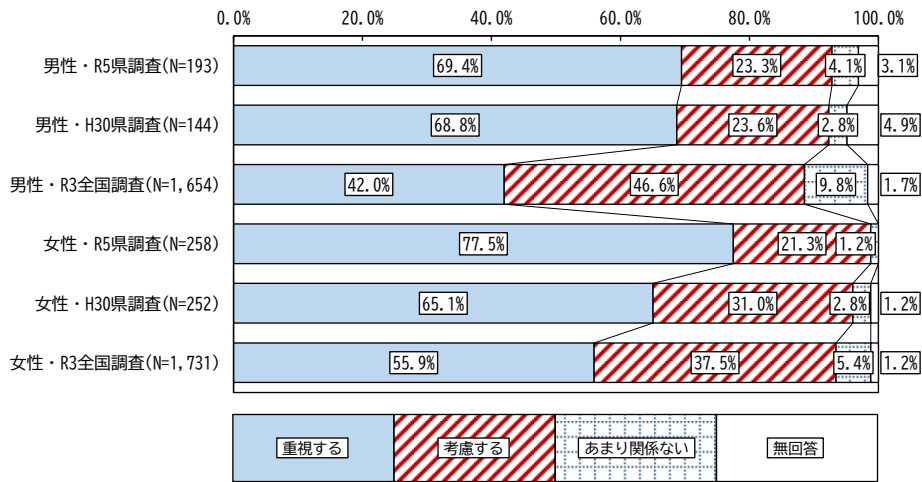


※集計対象：いずれ結婚するつもりの方の18～34歳

※R3 全国調査の質問内容は「相手の人から」

⑦-3 結婚相手を決める際に重視すること：自分の仕事や生き方に対する理解と協力

図表 結婚相手を決める際に重視すること：自分の仕事や生き方に対する理解と協力

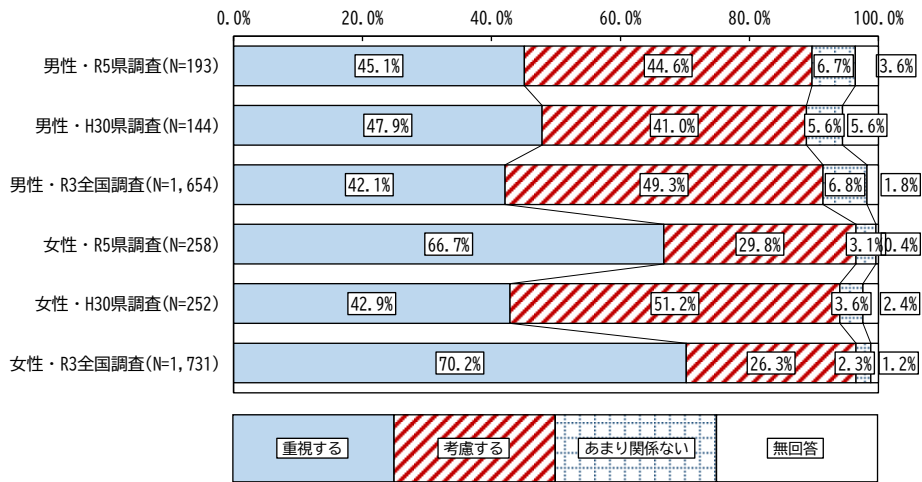


※集計対象：いずれ結婚するつもりの方の18～34歳

※R3 全国調査の質問内容は「自分の仕事に対する理解と協力」

⑦-4 結婚相手を決める際に重視すること：家事・育児に対する能力や姿勢

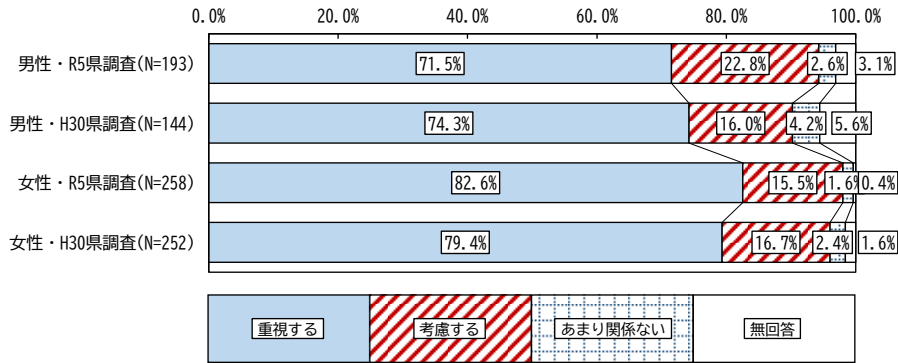
図表 結婚相手を決める際に重視すること：家事・育児に対する能力や姿勢



※集計対象：いずれ結婚するつもりの方の18～34歳

⑦-5 結婚相手を決める際に重視すること：価値観が合うこと

図表 結婚相手を決める際に重視すること：価値観が合うこと



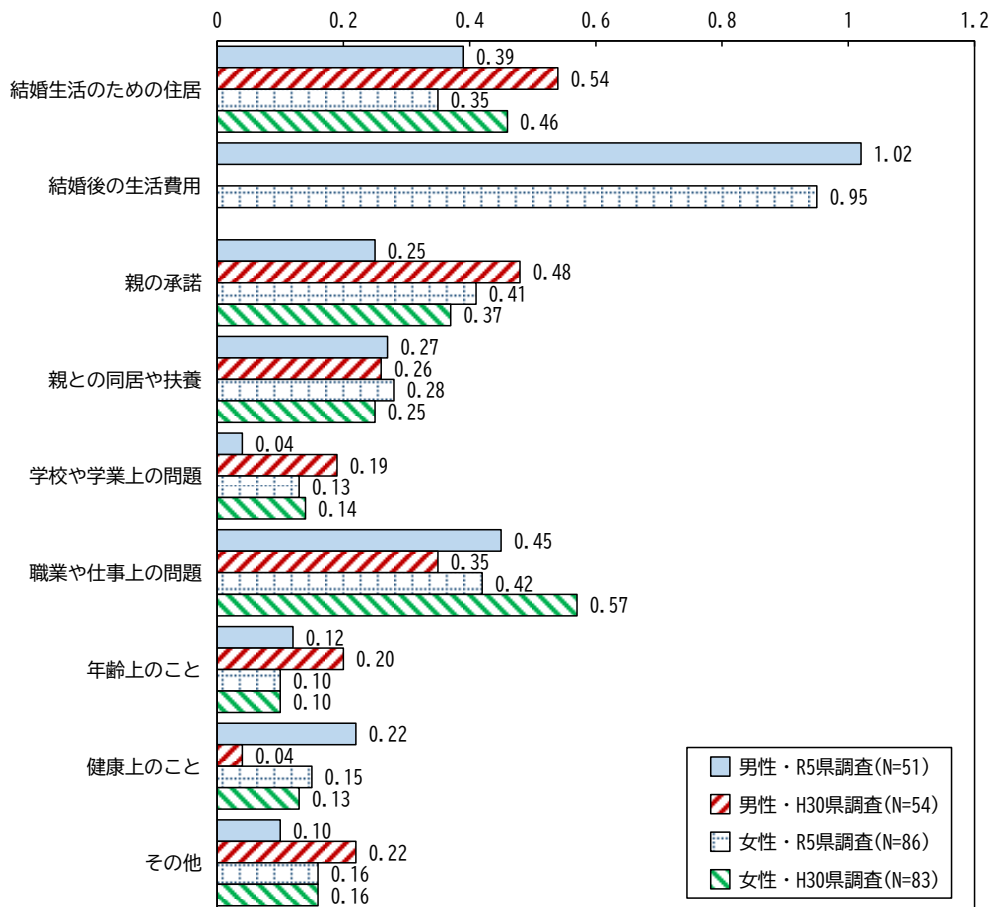
※集計対象：いずれ結婚するつもりの方の18～34歳

⑧ 結婚の障害になる具体的な内容

結婚の障害になる具体的な内容をみると、男性では「結婚後の生活費用」が1.02点で最も多く、次いで、「職業や仕事上の問題」が0.45点、「結婚生活のための住居」が0.39点となっている。

女性では「結婚後の生活費用」が0.95点で最も多く、次いで、「職業や仕事上の問題」が0.42点、「親の承諾」が0.41点となっている。

図表 結婚の障害になる具体的な内容（2つ選択）



※結婚経験のない方について、最大の障害＝2点、第二の障害＝1点として合計し、対象の母数で割った値を得点とした

※「結婚後の生活費用」は今回調査からの新規項目

⑨ 結婚するつもりがない理由

結婚するつもりがない理由をみると男女とも「自由な時間が減るから」が最も多く、男性で59.8%、女性で61.3%となっている。次いで、男性では「家庭をもつほどの収入がないから」が50.9%、「自由に使えるお金が減るから」が50.0%、女性では「共同生活に不安があるから」が54.8%、「パートナーの両親等の親戚付き合いがわずらわしいから」が52.4%となっている。

図表 結婚するつもりがない理由

